



LUCKY

2021.2

第51期 報告書

2020年3月1日から2021年2月28日

LUCKY

北雄ラッキー株式会社

JASDAQ:2747

株主の皆様へ

ごあいさつ

北雄ラッキー株式会社
代表取締役社長

桐 生 宇 優
きり ゆ う ひろ ま さ



株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

この度の新型コロナウイルス感染症により、お亡くなりになられた方々やそのご家族の皆様にご挨拶を謹んでお悔やみ申し上げますとともに、罹患された方々にお見舞いを申し上げます。また、医療従事者の皆様をはじめ、社会生活維持のため必要不可欠なお仕事に従事されている皆様に心より感謝申し上げます。

第51期（2020年3月1日～2021年2月28日）におきましては、新型コロナウイルス感染症が世界規模で蔓延し、日本のみならず世界経済が大きな打撃を受けております。また、コロナ禍の影響は世界中の広範囲に及んでおり、企業活動や私たちの社会生活は様々な制限や制約を受けることとなりました。

小売業におきましては、緊急事態宣言の発令や外出自粛要請によるリモートワークなどの新しい生活様式が広まるとともに、家庭での食事機会の増加による内食需要や巣籠り需要が高まりました。しかし一方では、感染リスクの高まる中、当社はお客様と従業員の安全・安心対策を最優先に、手洗い・消毒、マスクの着用及びソーシャルディスタンスの確保などの感染予防策の徹底を図り、地域のライフラインとしての役割を担うため、店舗の営業継続に最善を尽くしてまいりました。

また、コロナ禍の影響によるライフスタイルの多様化やデジタル化などが加速し顧客動向も大きく変化しており、マーケットの変化や状況を見極めて対応することが非常に重要となっております。当社においても、チラシなどの紙媒体の広告から、SNSを媒体とする情報発信にシフトしており、当社ホームページのFacebookはラッキーのファンづくりを目的に運営し、LINEは販売促進の有効ツールとして活用しております。

当社の事業継続の為の顧客基盤形成には、30代・40代の次世代ファミリー層の顧客開拓が重要課題であり、SNS媒体の情報発信はSNSに慣れ親しんでいる世代層へのアプローチとしても有効手段と認識しております。当社としては、付加価値商品の提供やワクワク感のある情報発信により、次世代ファミリー層をしっかりと囲い込み、さらに他の世代層を巻き込んでの顧客開拓を図り、少子高齢化などの構造変化に対応できる強固な経営基盤づくりに努めてまいります。

これからも時代や社会の変化にいち早く対応し、お客様のニーズにも的確にお応えできる企業を目指し、役職者一同が最大限の努力をしまいる所存でございますので、株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

店舗網

(2021年2月末現在)

営業店舗合計 34店

食料品・衣料品共同店 22店

食料品単独店 5店

衣料品単独店 7店

ラッキーマート幌向店

栗山店

長沼店

手宮店・朝里店

岩内店

倶知安店

千歳錦町店

ひとみ店・美原店

シティわっかない店

シティもんべつ店

シティマートなかゆうべつ店

シティえんがる店

シティびほろ店

シティあばしり店

シティマートめまんべつ店

シティマートくんねつ店

札幌市

札幌市

札幌市

札幌市

札幌市

札幌市

札幌市

札幌市

札幌市

札幌市

札幌市

札幌市

札幌市

札幌市

札幌市

札幌市

札幌市

札幌市

札幌市

札幌市

札幌市

札幌市

札幌市

札幌市

札幌市

札幌市

札幌市

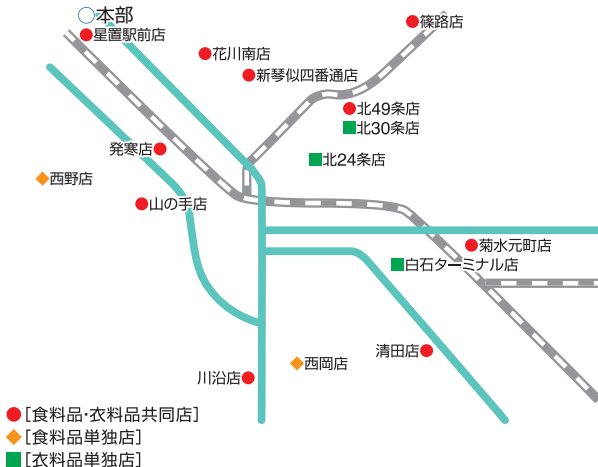
札幌市

札幌市

札幌市

札幌市

札幌市近郊店舗分布



- [食料品・衣料品共同店]
- ◆ [食料品単独店]
- [衣料品単独店]
- 本 部 〒006-0851 札幌市手稲区星置1条2丁目1番1号 ☎011-558-7000
- デリカセンター 北海道小樽市銭函3丁目193-1 ☎0134-62-1717
- シティデリカセンター 北海道網走郡美幌町字青山北53-3 ☎0152-75-2060
- 生鮮センター 札幌市中央区北12条西19丁目36-168 ☎011-623-0570
- 低温センター 札幌市中央区北12条西19丁目36-168 ☎011-643-4511
- 物流センター 北海道石狩市新港西3丁目700 ☎0133-75-8877

1971年4月、食品の小売および卸売を目的として株式会社オレンジチェーンを設立。1974年5月、商号を株式会社山の手ストアと改めチェーン展開を開始し、更なる店舗規模の拡大と集客部門の充実強化を図るため、1982年5月に札幌市内を中心に衣料品のチェーン展開を行っていた株式会社まるせんと合併。商号も現在の北雄ラッキー株式会社に変更しました。

その後、一層のチェーン展開を図り、石狩市、小樽市、道東の美幌町・遠軽町、道央圏の千歳市・栗山町・長沼町と規模を拡大し、更に道東地区のドミナント化を図るため網走市、紋別市へ進出、2005年10月には道北の稚内市、2008年9月には後志地方の岩内町、2011年11月には道南地区の函館市へと営業エリアを広げ、2021年2月末現在、全道各地に34店舗を展開しております。今後も、企業理念である「北雄ラッキーは、日本一質の高いスーパーマーケットをめざします。」を掲げ、お客様に感動を与えるサービスとともにニーズの変化を敏感に捉え、一步先を行くスーパーマーケットの創造に努力を続けてまいります。



「ナチュラルラッキー& テイスティラッキー」 ラッキーらしさの商品コンセプト

お客様にとって最大の関心事である「食」の「健康と安心」の面において、当社が自信を持っておすすめしているのが「ナチュラルラッキー」の商品コンセプトです。お客様の健康増進や病気予防に役立つよう、有機野菜、特別栽培品、無添加商品などを展開しております。また、もうひとつの商品コンセプトである「テイスティラッキー」は、「おいしさ」と「品質」で、家族が揃うお祝いの日や誕生日などの食卓で、家族みんなに満足していただける商品です。

健康で安心な毎日の食生活のために。
ナチュラルラッキー



北海道産小麦
春よ来い100%「haruco」

おいしいものをどんどん食卓に。
テイスティラッキー



ラッキー味付ジンギスカン



大塚ファーム
有機トマトジュース
PREMIUM RED



興部ハム
ベーコン・ハム・ウィンナー



平取農協
ニシバの恋人
トマトピューレ



中札内
そのまま枝豆

「お客様の食生活をゆたかに、 安心にすることが私たちの願いです。」

当社の商品政策である「6MD商品」(商品コンセプトによる6分類)提供の目的は、お客様の食生活をゆたかに、安心にすることにあります。6MD商品政策においては、商品が持っている様々な要素を6つの商品コンセプトを基に分類し、商品特性の見極めによる、顧客ニーズや価値観に適合する商品提供により、顧客満足度の向上を図っております。

私たちは、お客様が求めている商品やサービス、そして価値を提供することが、お客様の食生活をゆたかに、安心にすることに結びつくと考えております。



上のマークが目印です。お買い物にお役立てください。

LUCKY CITY

新型コロナウイルス感染症への対応



レジ周りに飛沫防止パネルを設置しています。

新型コロナウイルス感染拡大により、当社においても感染防止への対応・対処が必要となりました。感染拡大当初は、マスク・消毒液などが数量制限の対応となり、お客様にご迷惑をお掛けすることが続きましたが、流通量の回復とともに衛生関連用品コーナーを拡充拡大して需要に対応してまいりました。

また、お客様や従業員の安心と健康を最優先課題として感染防止に取組み、マスク・手袋の着用、レジ待ち密集回避のソーシャルディスタンスの確保、消毒液の設置や飛沫防止パネルの設置などによる感染予防策の徹底に努めております。



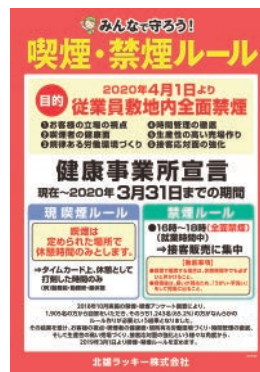
お客様の分かりやすい場所に、マスク・消毒液を並べています。

「企業価値向上への取組み」



札幌市からいただきました「企業認証書」です。

当社は、2021年1月に札幌市より「札幌市ワーク・ライフ・バランスplus企業認証」における「ステップ3 先進取組企業」の認証をいただきました。これは、企業価値の向上の一環として、当社における職場環境整備の取組みが評価いただけたものと認識しております。この認証は、優秀な人材の確保や定着のための有効なアピールポイントになっております。また、2020年4月から、当社で働く従業員とその家族の健康維持・増進を目的に全ての店舗及び施設において「従業員の敷地内全面禁煙」を実施し、「働きやすい環境づくり」の推進に努めております。



2020年4月1日から敷地内禁煙を実施しております。

■「ラッキー新琴似四番通店」の改装

2020年9月に札幌市北区の「ラッキー新琴似四番通店」を改装いたしました。2001年3月に開店した同店は、開店から現在に至るまで、当社の屋台骨を支え続けている旗艦店であります。今回の改装では、「地域にお住まいのお客様へ健康で美味しい食卓を提供し、豊かで楽しい食生活を追求する地域で一番愛される店」を改装コンセプトとして、「健康」、「即食・簡便」をキーワードに、「鮮度、品質、味」にこだわり、手軽に美味しさを味わえる店として、商圈内における存在感を高めてまいります。店内はお客様に気持ちよくゆったりお買物をしていただくため、シックで高級感のある色使いに変更。また、安心・安全なお買物のため、出入口での消毒液設置のほか、レジ周りや休憩コーナーなどに飛沫防止パネルを設置し、新型コロナウイルス感染予防に努めております。



開店直後のお客様の行列です。



休憩コーナーのテーブルには、飛沫防止パネルを設置しています。



テイスティラッキー商品の白老牛と釧路産アップルビーフです。



最高品質の本鮪からお買い得まで、まぐろはすべて「おいしい」を優先しています。

北雄ラッキーは「今も未来も地域のお客様と共にあり続けたい」という願いのもとに、地球温暖化防止（二酸化炭素の削減）をはじめとする環境問題に積極的に取り組み、従業員一人ひとりが身近で出来ることから、着実に実践し積み重ねることで、地域のスーパーマーケットとして、地球や人にやさしい環境づくりに貢献してまいります。

■「サインポールのLED化で一石三鳥」



白色ライトアップで文字もはっきりと映えています。

当社では、店内照明のLED化に続き、サインポールの照明もLED化を推進しております。従来型照明と比べて65%の電力コスト削減及びCO²削減になり、ランプ寿命も非常に長持ちしますので交換の労力も少なくなります。また、虫が寄って来なくなるという効果もあり、これはもう一石三鳥狙いのLED化です。

■「お客様とともに行う環境活動」

北雄ラッキーの各店舗（一部店舗を除く）では、お客様のご協力を得て食品トレーの回収を行っております。この活動により、2019年3月～2020年2月実績では、重量で約10tのトレー回収を達成し、このトレーをリサイクルしたエコトレーを使用し、約187tものCO²を削減することが出来ました。お客様のご協力に感謝申し上げます。



1年間のトレー回収実績です。



各店舗に設置している資源回収BOXです。

当期の概況

●営業の状況

当事業年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的流行の影響による急激な経済活動の停滞により景気は大幅後退となり、昨年末以降の感染再拡大により収束時期の不透明感が再び強まっており、景気動向は依然として予断を許さない状況が続いております。

スーパーマーケット業界におきましては、コロナ禍による内食需要の高まりによる果ごもり消費や食料品のまとめ買い傾向が強まったものの、将来の不安による消費者の生活防衛意識が高まる中で競合他社との価格競争に加えて、リモートワークなどの新しい生活様式への対処や少子高齢化社会への対応、さらに地域のライフラインとしての役割を果たすことなどの課題が山積となっております。

当社はコロナ禍に対して「手洗い」「消毒」「マスク着用」「ソーシャルディスタンスの確保」などの衛生管理の徹底による感染症防止に取組み、お客様と従業員の安全確保を最優先事項として、営業継続に注力いたしました。

営業面におきましては、非常事態宣言の発令や外出自粛要請により、内食需要や生活防衛意識が高まる中、パワープライスMD(支持される価格)に重点を置き、まとめ買い需要や低価格志向に対応し、顧客ニーズに適応するジャスト適量パックMD(適正量目)の強化により、果ごもり消費の対応などに注力いたしました。

顧客サービスにおきましては、顧客利便性の向上並びに感染予防としても有効な非接触型決済の推進を目的として、各

種電子マネー・QRコード決済サービスを積極的に導入いたしましたところ、キャッシュレス決済比率は53.0%(前期比3.6ポイント増)となっております。

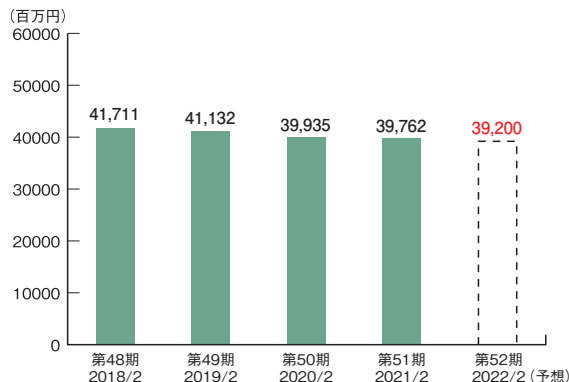
当事業年度の売上につきましては、コロナ禍の影響による内食需要の高まりに加え、果ごもり消費やまとめ買いの増加などにより堅調に売上高は推移したものの、一方では外出自粛の影響による衣料部門の低迷、お盆や年末帰省の自粛、一部地域における冬期間のインバウンド需要の消失などがマイナス要因となり、売上高は前期を下回り減収となっております。

経費面におきましては、いわゆる3密回避を目的とするチラシ・ポイント販促の自粛による販売費の削減及び原油相場停滞による水道光熱費の減少により、販売費及び一般管理費は前期比99.7%、前期に比べ29百万円の削減となり、営業利益及び経常利益は増益となっておりますが、当期純利益は固定資産売却損及び減損損失による特別損失1億80百万円を計上したことにより前期を下回り減益となっております。

設備投資等につきましては、新設店舗及び閉鎖店舗は無く、2020年9月に「ラッキー新琴似四番通店」の改装を実施しております。2021年2月28日現在の店舗数は、34店舗であります。

これらの結果、当事業年度の経営成績は、売上高は397億62百万円(前期比0.4%減)、営業利益は4億62百万円(同15.6%増)、経常利益は4億77百万円(同16.4%増)、当期純利益は1億92百万円(同12.3%減)となりました。

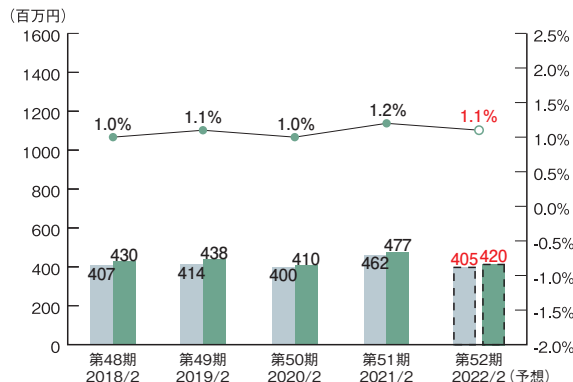
売上高の推移と予想(第48期～第51期実績と第52期予想)



営業利益の推移と予想(第48期～第51期実績と第52期予想)

経常利益の推移と予想(第48期～第51期実績と第52期予想)

売上高対経常利益率



●次期の見通し

国内経済の見通しにつきましては、世界経済の回復傾向や新型コロナウイルスワクチン接種の普及により回復していくことが期待されますが、変異株ウイルスの拡大懸念などもあり、新型コロナウイルス感染症の影響は当面続くものと予想されるほか、一定の経済活動抑制が継続するなかで、雇用・所得環境の回復の遅れが景気への下押しとなり、本格的な景気回復には時間を要するものと思われます。

スーパーマーケット業界におきましては、少子高齢化による消費・生産人口の減少、コロナ禍による消費者の購買行動の変化や働き方の変化、節約志向の高まり、オーバーストア・業種業態を超えた競争の激化など、業界を取り巻く環境は大きく変化しており、予断を許さない状況が続くと思われます。

当社はこのような状況の中、依然として厳しい経営環境の認識のもと、地域顧客のライフラインとしての役割を担いつつ、持続的な事業運営に努めており、「商品力」、「販売力」及び「マーケティング力」の強化に最大限傾注することにより、更なる成長を実現すべく経営基盤の強化に努めております。次期におきましては、コロナ禍への対処の継続に加えて、社会構造の変化や生活様式の変化により多様化する顧客ニーズに的確に対応し、事業の継続性・安定性・収益性・成長性の確保を目指してまいります。

重点課題としては、以下の項目について対応してまいります。

①競合他社との優位性を図るための商品力強化(6MDの深耕)、②ローコスト運営の徹底と業務効率の改善、③客

単価最大化を目的とする販売力の強化、④マーケティング力強化によるロイヤリティの向上とファミリー顧客層の拡大、⑤新デリカセンターの稼働に伴う収益力向上の基盤づくり、⑥「商品力」、「販売力」及び「マーケティング力」の結集によるロイヤリティ・ブランド力の確立、⑦財務体質の強化。

当社はこうした数ある課題を着実に実施していくことにより、厳しい経営環境にある中、競争力のある企業、お客様から愛される企業の構築に向けて取組んでまいり所存であります。

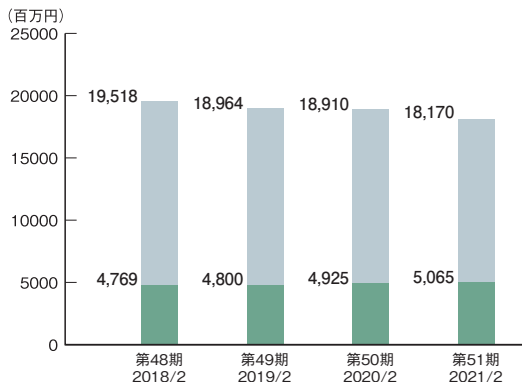
株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

次期の投資計画として、新規出店及び大型改装の予定はありませんが、2021年11月に「新デリカセンター」の新設・稼働を予定しており、付加価値を追求した差別化商品の開発及び内製化による収益力強化を見込んでおります。

次期の業績予想につきましては、現時点で、新型コロナウイルス感染症の収束時期は未だ目途が立たず、次期においても一定期間にわたって感染症の影響が継続すると想定されるため、当期の業績を参考に、景気回復の不透明な状況及び競合激化の環境を考慮し、売上高392億円(前期比1.4%減)、営業利益4億5百万円(同12.4%減)、経常利益4億20百万円(同12.1%減)、当期純利益2億60百万円(同34.9%増)を見込んでおります。

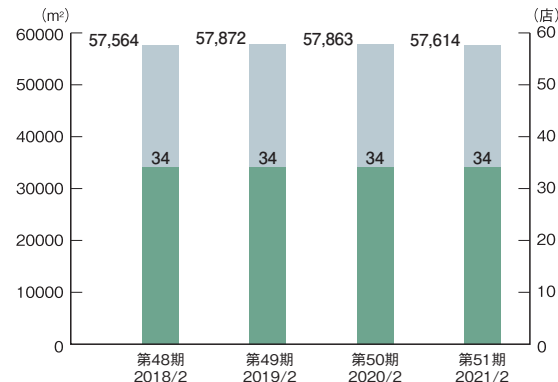
■ 総資産の推移 (第48期～第51期実績 4期分)

■ 純資産の推移 (第48期～第51期実績 4期分)



■ 期中平均売場面積の推移

■ 期末店舗数の推移



財務諸表

●貸借対照表

単位:千円

科 目	前 期	当 期
	2020年2月29日 現在	2021年2月28日 現在
〈資産の部〉		
流 動 資 産	5,051,477	4,991,418
現金及び預金	1,924,762	2,057,253
売 掛 金	946,230	834,501
商 品 及 び 製 品	1,546,676	1,464,357
原材料及び貯蔵品	66,807	60,118
前 払 費 用	103,057	95,730
未 収 入 金	446,424	466,017
そ の 他	17,786	13,707
貸 倒 引 当 金	△267	△267
固 定 資 産	13,854,982	13,178,015
有 形 固 定 資 産	11,298,132	10,707,359
建 物	3,664,494	3,415,094
構 築 物	129,067	106,465
機 械 及 び 装 置	119	79
車 輜 運 搬 具	575	345
工具、器具及び備品	43,142	34,451
土 地	7,222,022	6,943,376
リ ー ス 資 産	208,015	163,483
建 設 仮 勘 定	30,694	44,062
無 形 固 定 資 産	93,538	104,901
ソフトウェア	74,353	86,672
ソフトウェア仮勘定	955	—
電 話 加 入 権	18,228	18,228
投資その他の資産	2,463,311	2,365,755
投資有価証券	182,332	190,798
繰延税金資産	448,529	443,483
差入保証金	1,727,089	1,654,059
そ の 他	105,359	77,413
繰 延 資 産	3,800	1,147
社 債 発 行 費	3,800	1,147
資 産 合 計	18,910,261	18,170,581

単位:千円

科 目	前 期	当 期
	2020年2月29日 現在	2021年2月28日 現在
〈負債の部〉		
流 動 負 債	10,232,723	9,894,695
買 掛 金	3,042,035	2,867,084
1年内償還予定の社債	50,000	300,000
短 期 借 入 金	4,050,000	3,850,000
1年内返済予定の長期借入金	1,161,382	1,130,348
リ ー ス 債 務	137,219	112,830
未 払 金	590,240	524,205
未 払 費 用	301,269	288,286
未 払 法 人 税 等	100,040	71,157
未 払 消 費 税 等	78,735	29,821
前 受 金	20,406	19,126
預 り 金	563,807	549,532
賞 与 引 当 金	105,994	120,842
ポイント引当金	31,591	31,461
固 定 負 債	3,752,214	3,210,802
社 債	600,000	300,000
長 期 借 入 金	1,625,291	1,466,558
リ ー ス 債 務	179,600	150,675
退職給付引当金	879,567	875,334
長期預り保証金	293,039	277,203
資産除去債務	62,395	63,255
そ の 他	112,320	77,774
負 債 合 計	13,984,937	13,105,497
〈純資産の部〉		
株 主 資 本	4,915,655	5,044,891
資 本 金	641,808	641,808
資 本 剰 余 金	351,215	351,215
利 益 剰 余 金	3,924,304	4,053,807
自 己 株 式	△1,672	△1,939
評 価 ・ 換 算 差 額 等	9,668	20,192
その他有価証券評価差額金	9,668	20,192
純 資 産 合 計	4,925,323	5,065,084
負 債 ・ 純 資 産 合 計	18,910,261	18,170,581

●損益計算書

単位:千円

科 目	前 期	当 期
	2019年3月 1日～ 2020年2月29日	2020年3月 1日～ 2021年2月28日
売 上 高	39,935,114	39,762,572
売 上 原 価	29,687,709	29,502,155
売 上 総 利 益	10,247,405	10,260,416
営 業 収 入	1,131,275	1,151,154
営 業 総 利 益	11,378,680	11,411,571
販売費及び一般管理費	10,978,634	10,949,052
営 業 利 益	400,046	462,519
営 業 外 収 益	52,886	55,524
営 業 外 費 用	42,578	40,416
経 常 利 益	410,353	477,627
特 別 損 失	74,626	180,531
税引前当期純利益	335,727	297,095
法人税、住民税及び事業税	105,443	100,286
法 人 税 等 調 整 額	10,457	4,105
当 期 純 利 益	219,825	192,704

●剰余金処分

期末配当に関する事項

- (1)配当財産の種類 金銭といたします。
- (2)配当財産の割当に関する事項及びその総額
普通株式 1株につき金50円 配当総額 63,197,600円
- (3)剰余金の配当が効力を生じる日 2021年5月26日

(参考)

1. 当期における配当性向 32.8%	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
2. 1株当たり配当金の推移(期末時)	10.0円	10.0円	50.0円	50.0円	50.0円

※当社は 2018 年9月1日付で普通株式5株を1株とする株式併合を実施しております。

●キャッシュ・フロー計算書

単位:千円

科 目	当 期
	2020年3月1日～2021年2月28日
営業活動によるキャッシュ・フロー	741,498
投資活動によるキャッシュ・フロー	29,643
財務活動によるキャッシュ・フロー	△638,650
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	132,491
現金及び現金同等物の期首残高	694,762
現金及び現金同等物の期末残高	827,253

●株主資本等変動計算書

当期(自 2020年3月1日 至 2021年2月28日)

単位:千円

	株主資本									評価・換算差額等		純資産 合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			自己 株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等 合計	
		資本 準備金	その他 資本 剰余金	資本 剰余金 合計	その他利益剰余金		利益 剰余金 合計					
					別途 積立金	繰越利益 剰余金						
2020年3月1日残高	641,808	161,000	190,215	351,215	2,465,000	1,459,304	3,924,304	△1,672	4,915,655	9,668	9,668	4,925,323
当期変動額												
剰余金の配当						△63,201	△63,201		△63,201			△63,201
当期純利益						192,704	192,704		192,704			192,704
自己株式の取得								△266	△266			△266
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）										10,524	10,524	10,524
当期変動額合計	—	—	—	—	—	129,502	129,502	△266	129,236	10,524	10,524	139,760
2021年2月28日残高	641,808	161,000	190,215	351,215	2,465,000	1,588,807	4,053,807	△1,939	5,044,891	20,192	20,192	5,065,084

売上・設備の状況

●商品別売上高の推移と直近構成比の状況

○売上高の概要

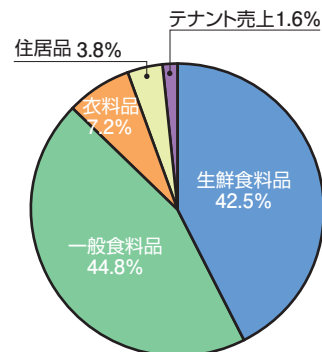
当事業年度の売上につきましては、コロナ禍の影響による内食需要の高まりに加え、巣ごもり消費やまとめ買いの増加などにより、食品全般及び衛生用品は堅調に売上高を維持したものの、一方では外出自粛の影響によりシニア向け衣料が不振となった衣料部門の低迷、お盆や年末帰省の自粛、一部地域における冬期間のインバウンド需要の消失などがマイナス要因となり、売上高は前期比99.6%の減収となっております。

商品別売上高

単位：百万円

	第 49 期 2019/2	第 50 期 2020/2	前期比(%)	第 51 期 2021/2	前期比(%)	第 52 期(予想) 2022/2	前期比(%)
スーパーマーケット事業部門	41,132	39,935	97.1	39,762	99.6	39,200	98.6
生鮮食料品	17,045	16,661	97.7	16,915	101.5	16,049	94.9
一般食料品	18,321	17,921	97.8	17,825	99.5	18,251	102.4
衣料品	3,579	3,213	89.8	2,844	88.5	2,819	99.1
住居品	1,555	1,511	97.2	1,528	101.2	1,450	94.8
テナント売上	630	626	99.3	649	103.7	631	97.2
合 計	41,132	39,935	97.1	39,762	99.6	39,200	98.6

第 51 期（2021/2）売上構成比



※2022 年 2 月期の期首より、加工肉の売上区分が生鮮食料品から一般食料品に移行しております。

●設備投資等の概要

設備投資等につきましては、新設店舗及び閉鎖店舗は無く、2020年9月に競合対策の強化及び顧客利便性の向上を図るため「ラッキー新琴似四番通店」の改装を実施しております。当期の設備投資の総額は、197,654千円であり、2021年2月28日現在の店舗数は、34店舗であります。

設備投資の推移

単位：百万円

	第 49 期 2019/2	第 50 期 2020/2	前期比(%)	第 51 期 2021/2	前期比(%)	第 52 期 (予想) 2022/2	前期比(%)
投資金額合計	242	406	167.4	197	48.6	1,088	550.9
新店投資	—	246	—	—	—	—	—
既存店 改装投資	63	59	94.6	64	108.1	10	15.4
そ の 他	179	100	55.9	132	132.5	1,078	811.7
減価償却費	330	307	92.9	305	99.3	322	105.7
リース償却費	217	136	62.8	89	66.0	89	99.8

注 本資料に記載されている業績予想につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

●店舗の状況

(1) 開店・閉店店舗数と期末平均売場面積

	第 46 期 2016/2	第 47 期 2017/2	第 48 期 2018/2	第 49 期 2019/2	第 50 期 2020/2	第 51 期 2021/2
開店						
店舗数	2	1	2	0	0	0
平均売場面積(㎡)	1,865	457	1,117	0	0	0
閉店						
店舗数	1	4	1	0	0	0
平均売場面積(㎡)	715	3,826	493	0	0	0
全店						
店舗数	36	33	34	34	34	34
期末売場面積(㎡)	60,617	57,133	57,511	57,868	57,827	57,380
期中平均売場面積(㎡)	60,337	58,368	57,564	57,872	57,863	57,614

(2) タイプ別店舗数と期末売場面積

	第 46 期 2016/2	第 47 期 2017/2	第 48 期 2018/2	第 49 期 2019/2	第 50 期 2020/2	第 51 期 2021/2
衣料品単独店						
店舗数	9	8	7	7	7	7
期末売場面積(㎡)	6,313	5,404	4,911	4,911	4,911	4,692
食料品単独店						
店舗数	5	4	6	5	5	5
期末売場面積(㎡)	5,115	4,507	5,624	4,029	3,987	3,987
食料品・衣料品共同店						
店舗数	22	21	21	22	22	22
期末売場面積(㎡)	49,189	47,222	46,976	48,928	48,929	48,701

会社概要

				(2021 年 5 月 25 日現在)			
設 本	立 社	1982(昭和57)年5月10日		役 員	代 表	取締役社長 桐生 宇優	
		〒006-0851				取締役 専務執行役員 錦澤 賢治 (管理本部長兼経理部長)	
資 本	金	札幌市手稲区星置1条2丁目1番1号		取 締	役	取締役 常務執行役員 田中 寛密 (営業本部長)	
		6億4180万円				取締役 役 吉田 周史 (社外取締役)	
代 表 者	従 業 員 数	代表取締役社長 桐生 宇優		常 勤	監 査 役	黒崎 昭仁	
		正社員 473名				堀 勝彦	
営 業 品 目	目	パートタイマー 1,282名		監 査 役	役	宮脇 憲二 (社外監査役)	
		(1人8時間換算 月平均)				伊藤 光男 (社外監査役)	
営 業 品 目	目	2021年2月末日現在		監 査 役	役	伊藤 光男 (社外監査役)	
		生鮮食料品・加工食品・菓子・衣料品・日用雑貨・米・酒				斎藤 礼二 (遠軽店 店長)	
営 業 品 目	目			執 行 役 員	員	高橋 徹 (管理本部 管理部長)	
						新榮 登 (営業本部 商品統括部長)	
営 業 品 目	目			執 行 役 員	員	吉田 武生 (営業本部 販売統括部長)	

沿革

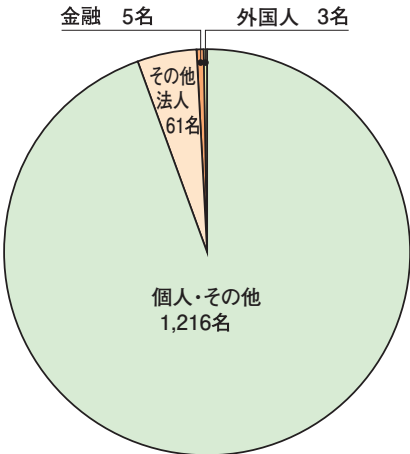
1971年 4月	食品の小売及び卸売を目的として、札幌市手稲西野(現 西区西野)に資本金6,000千円にて株式会社オレンジチェーンを設立。	2000年 3月	網走市駒場にシティあばしり店を開店。道東地区3店舗となる。
1973年 4月	本社を札幌市西区山の手1条7丁目に移転。		同月、食品の安全性検査のため独自の商品検査室(現 安全衛生管理室)を設置。
1974年 5月	商号を株式会社山の手ストアに変更し、本格的にスーパーマーケットのチェーン展開を開始。	2001年 3月	札幌市北区にラッキー新琴似四番通店を開店。
	同月、山の手店(現 ラッキー山の手店)をはじめ、5店舗の営業を開始。	2002年 3月	中川郡幕別町にラッキー衣料館札内店を開店。
1975年 10月	札幌市東区に北49条店(現 ラッキー北49条店)を開店。以後、1982年5月までに札幌市内5店舗を開店。	2002年 4月	札幌市手稲区にラッキー星置駅前店を開店。
1976年 10月	札幌市豊平区(現 清田区)に清田店を開店。	2002年 10月	日本証券業協会に株式を店頭登録。
1977年 12月	E O S(補充発注システム)を導入。	2003年 4月	夕張郡長沼町にラッキー長沼店を開店。
1982年 5月	株式会社まるせんと合併すると同時に北雄ラッキー株式会社に商号変更。資本金151,000千円。同時に本社を札幌市中央区大通西23丁目291-1に移転。	2003年 9月	札幌市西区にラッキー発寒店を開店。
1984年 6月	本社を札幌市中央区宮の森3条1丁目1-25に移転。	2004年 5月	精肉・鮮魚商品を店舗へ供給する生鮮センターを稼動。
1988年 7月	小樽市新光町にラッキー朝里店を開店。小樽市へ進出。	2004年 6月	紋別市渚清にシティもんべつ店を開店。道東地区4店舗となる。
1989年 7月	本社を札幌市中央区北11条西19丁目36-35に移転。	2005年 10月	稚内市新光町にシティわっかない店を開店。道北地区へ進出。
1990年 3月	P O S(販売時点情報管理)システムを導入。	2006年 3月	青果物・水産物を店舗へ配送する低温センターを稼動。
1991年 10月	石狩町(現 石狩市)花川にラッキー花川南店を開店。	2007年 7月	小樽市手宮にラッキー衣料館手宮店を開店。
1993年 9月	株式会社シティびほろと合併し、シティびほろ店を開店。道東地区へ進出。	2008年 9月	岩内郡岩内町にラッキー岩内店を開店。
1994年 3月	千歳市錦町にラッキー千歳錦町店を開店。千歳市へ進出。	2011年 11月	函館市人見町にラッキー衣料館ひとみ店を開店。
1994年 4月	紋別郡遠軽町にシティえんがる店を開店。道東地区2店舗となる。	2012年 9月	函館市美原にラッキー衣料館美原店を開店。
1996年 3月	本格的にインストアペーカリーを手がけ、以後各店へ導入。	2013年 6月	本社を札幌市手稲区星置1条2丁目1番1号に移転。(ラッキー星置駅前店に併設)
1998年 3月	夕張郡栗山町にラッキー栗山店を開店。	2014年 3月	虻田郡倶知安町にラッキー倶知安店を開店。
		2015年 7月	常呂郡訓子府町にシティマートくんねっぷ店を開店。
		2015年 7月	岩見沢市幌向にラッキーマート幌向店を開店。
		2016年 4月	網走郡大空町にシティマートめまんなべつ店を開店。
		2017年 10月	紋別郡湧別町にシティマートなかゆうべつ店を開店。

株式の状況 (2021 年2月28日現在) 東証JASDAQ(スタンダード):2747

発行済株式の総数 **1,264,640株**

期末株主総数 **1,285名** (前期比 65 名増)

●所有者別株主数



※個人・その他には、自己株式1名分が含まれております。

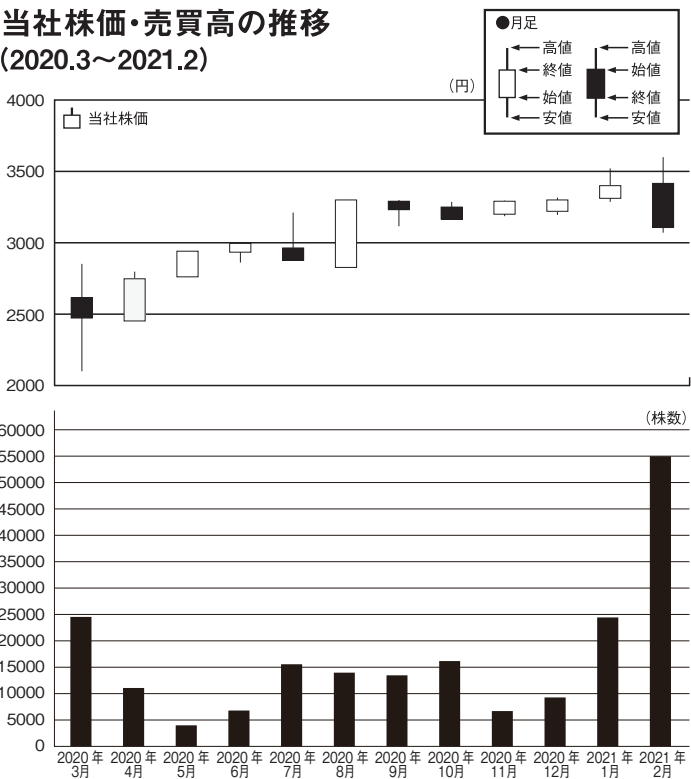
●大株主の状況

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	出資比率(%)
桐生興産株式会社	290,300	22.96
横山 清	70,000	5.53
株式会社北洋銀行	62,000	4.90
田中 寛密	60,000	4.74
堀 勝彦	48,000	3.79
有限会社まるせん商事	33,000	2.61
株式会社北海道銀行	30,000	2.37
千葉 サカエ	27,600	2.18
ノースパシフィック株式会社	27,000	2.13
株式会社桐生商店	22,400	1.77

(注)出資比率は自己株式(688株)を控除して計算しております。

※2018年9月1日を効力発生日として、単元株式数を1,000株から100株に変更するとともに、普通株式5株を1株とする株式併合を実施したことにより、発行済株式総数が1,264,640株となっております。

●当社株価・売買高の推移 (2020.3～2021.2)





2021.2
第51期 報告書

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合 （特別口座の場合）
郵送物送付先	お取引の証券会社等になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉 2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問い合わせ先		フリーダイヤル 0120-288-324 （土・日・祝日を除く 9:00～17:00）
各種手続取扱店 （住所変更、株主配当金 受取り方法の変更等）		みずほ証券 本店および全国各支店 プラネットブース（みずほ銀行内の店舗） でもお取扱いたします。
		みずほ信託銀行 本店および全国各支店（※） （※）トラストラウンジではお取扱できませんので ご了承ください。
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行（※）およびみずほ銀行の本店および全国各支店 （みずほ証券では取次のみとなります） （※）トラストラウンジではお取扱できませんのでご了承ください。	
ご 注 意	支払明細発行については、右の「特別 口座の場合」の郵便物送付先・電話お 問い合わせ先・各種手続取扱店を ご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取・買増以 外の株式売買はできません。証券会社等に口 座を開設し、株式の振替手続を行っていただ く必要があります。

株 主 メ モ

決算期日	2月末日
株主総会 基準日	毎年5月 2月末日 そのほか臨時に必要がある場合には、あらかじめ公告いたします。
配当金受領株主確定日	剰余金の配当2月末日 中間配当を行う場合は8月31日
1単元の株式の数	100 株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
公告掲載方法	電子公告により行います。
株主優待制度	株主優待制度として、毎年2月末日現在の100株以上ご保有の株主の皆様に対し、保有株式数に応じて以下のとおり株主優待贈呈品を年1回お届けいたします。

保有株式数	基準日	優待内容
100株以上200株未満	毎年2月末日	年1回、1,000円相当のJCBギフトカードを贈呈。
200株以上1,000株未満	毎年2月末日	年1回、5,000円相当のJCBギフトカードもしくは「北海道特産品」を贈呈。
1,000株以上	毎年2月末日	年1回、10,000円相当のJCBギフトカードもしくは「北海道特産品」を贈呈。

※2018年9月1日を効力発生日として、単元株式数を1,000株から100株に変更するとともに、普通株式5株を1株とする株式併合を実施しております。

本報告書で記述されている当社の現在の計画、戦略、業績予想並びに将来予測などは、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、経済情勢・市況環境等の様々な要因の変化により、実際の事業内容や業績は、これらの見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おください。従いまして、当社の業績や企業価値等をご検討される際に、これら見通しのみに全面的に依拠することは避けていただきますようお願い致します。

また、本報告書に記述するいかなる情報も、当社の株式等の購入や売却を勧誘したり、これらに対する投資をアドバイスする目的で作成されたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるようお願い致します。